



NPO法人中部フィルハーモニー交響楽団

中部フィルだより

新メンバー紹介

トロンボーン 菅貴登

はじめまして。この度入団致しましたトロンボーンの新メンバー菅貴登です。東京生まれ、東京育ちの、床屋の息子、ちゃきちゃきの江戸っ子です。洗足学園音楽大学で学び、2008年に卒業、フリーで7年間活動したのち昨年8月のオーディションで合格を頂き現在に至ります。

中学、高校と吹奏楽に燃えていた青春時代でした。が、高校から現在もお世話になっています尊敬する師匠がオーケストラプレイヤーでしたので、自然とオーケストラに興味を持っていました。そして大学に入り初めてオーケストラで演奏したときに「オケマンになる！」と決めました。

大学2年からオーケストラのオーディションを受け始め……受けても受けても最後の1人になることが出来ないという結果の繰り返し。けっこうな回数を受けました。

昨年8月の中部フィルのオーディションに合格したときは「やっと念願のオケマンになれる」と心の底から嬉しかった気持ちを鮮明に覚えています。

私はトロンボーン奏者ですので、なによりハーモニー、調和を常日頃から大切なことだと思っています。演奏会ではひな壇後列からトロンボーン・チューバの美しいハーモニーをお届けしたいと思います。

新しいスタートラインに立つにあたり、感謝の気持ちを忘れず、お客様に喜んで頂けるよう、自分の腕も心も磨き、中部フィル発展への力になれるよう頑張ります。

そして皆様の身近なオーケストラ、身近なプレイヤーになれるように……

今後とも応援よろしくお願い致します！



バストロンボーン 森川元気

昨年9月にバストロンボーン奏者として入団いたしました、森川元気です。どうぞよろしくお願い致します。こうしてご挨拶させていただくのは初めてですが、既にコンサートでお会いしている方も多いでしょうか。

バストロンボーンというと、オーケストラの中ではマイナーな部類の楽器かと思いますが(余談ですが、持ち替え楽器では無いのに、音教の楽器紹介ではいつも省かれる程です)。今日は、そんなマイナー楽器のバストロンボーンについて、少しご紹介したいと思います。

大室さんや菅さんが演奏される、普通のトロンボーンのこととはテナートロンボーンといいますが、バストロンボーンはそれとは楽器のつくりもオーケストラ内での役割も異なります。

テナートロンボーンと比べると、バストロンボーンはベルが大きく、管が太く、バルブが1つ多く、マウスピースも大きく深いものを使用します。勿論、楽器の値段も相応に高いです(笑)。音色は太く、柔らかで、温かい音が特徴です。名前からすると意外なことに、出せる音域自体はテナートロンボーンと変わりありませんが(約5オクターブ)、低音域での可動性に優れます。少々乱暴な言い方ですが、ヴァイオリンとヴィオラのような関係だと思っていただければわかりやすいかと思ひます。

オーケストラの中では、3番目のトロンボーンとして演奏することも勿論ありますが、チューバやコントラバス、ティンパニなんかと一緒にベースラインを作る仕事も多く、中低音域の架け橋となる楽器です。

最後に、バストロンボーン活躍する曲をいくつかご紹介いたします。現在行っている「文化庁公演」の『ファランドール』。12月の「松阪第九公演」の『第九』。小牧市内中学校音楽鑑賞会の『ハーリヤーン・シュ』。それぞれバストロンボーンにソロがございまして、ご期待ください。皆様に会場でお会い出来ますことを、楽しみにしています。



チューバ 井上晃輔



はじめまして。生まれは愛知県と同じ「愛」からはじまる愛媛県です。大学時代は岡山県に住んでいました。

楽器を始めて10年という節目でオーディションに合格することができました。オーケストラに強い憧れを持っていましたが、いざ入団してみると緊張の連続でまだまだ不安がいっぱいです。オーケストラのチューバ奏者は基本的に楽団一人、とてもプレッシャーを感じています。しかしこの大変有り難い貴重な機会、団員との出会いを大切に少しずつ確実に経験を積み、一人前の演奏家を目指して小牧で成長していきます。これから宜しくお願い致します。

よろしくお祈りします！！



編集後記

オーケストラは9月末から10月にかけて文化庁公演にて九州の小中学校に巡回公演を行ってまいりました。毎日違う環境での演奏。体育館の大きさや響きの違い等いろいろありますが、指揮者、演奏者、スタッフ、それぞれが協力、工夫しながら子供達に喜んでいただく公演が出来たと思ひます。音楽の素晴らしさを少しでも感じてもらえることが私たちの最大の喜びです。

中部フィルだより 第28号

発行日 2015年10月27日
発行所 NPO法人 中部フィルハーモニー交響楽団
〒485-0041 小牧市小牧二丁目107(市民会館内)
TEL:0568(43)4333 FAX:0568(43)4334
http://www.chubu-phil.com/

新事務局長あいさつ

初めまして、10月より中部フィルの事務局長に就任しました大野英人と申します。これからよろしくお願い致します。

オーケストラの世界(関西フィルの前身ヴィエール・フィル)へトロンボーン奏者として飛び込んでから約40年になります。その間、奏者から事務局に移り、関西フィル(12年)、広島交響楽団(18年)、名古屋フィルハーモニー交響楽団(7年)で事務局長などを務めどっぴりとオーケストラの世界に浸かってまいりました。僕が音楽を好きになったのは、意外に自然なものでした。それは、中一の時に、父からクリスマスにポータブルステレオをプレゼントされ、合わせてマーチ(行進曲)のレコードを買ってくれたところからすべてが始まりました。そのレコードを聴き、まさしく頭の中で「雷」が鳴るような衝撃を受け、クリスマスから正月の間は夢中になって聴いていました。特に、曲の中間で勇壮なテーマを演奏するトロンボーンに、涙するくらい感動しました。これが音楽の道に入ったきっかけです。このように自分が音楽の道に入った原点から、オーケストラで、クラシック音楽を自然に好きになる人がもっと増えて欲しいと常に思っています。そして、中部フィルもその役割を担っていきたくと今、強く願っています。

クラシック音楽の世界は、広く、深いです。年齢に関係なく一度好きになれば一生付き合ってくれる生涯の友になります…実際、最近も春日井市の50代の私の知人がクラシック音楽にはまり始めましたよ…。



事務局長 大野英人

第32回日本管打楽器コンクール第1位！

バストロンボーン奏者の森川元気が、8月29日に行われた日本最高峰のコンクール「第32回日本管打楽器コンクール」で第1位に選ばれるとともに、9月3日に行われた特別大賞演奏会で「特別大賞」「内閣総理大臣賞」「文部科学大臣賞」「東京都知事賞」を受賞しました。開催四部門の頂点にたつ「特別大賞」のバストロンボーンでの受賞は大会史上初という快挙でした。



堀俊輔指揮者 文庫本

こんな僕でも指揮者になれた 堀俊輔

当団正指揮者、ホリヤンこと堀俊輔による、抱腹絶倒のエッセイ。

「ホリヤンの音楽の魅力。そこには哲学、文学、歴史、それに喜劇がギッシリ詰まっている。彼を見ていると、努力するに遅すぎるといえることはない」と教えられる。」

(秋山和慶芸術監督より)

～本人コメント～

皆様いつも中部フィルを応援して下さい有難うございます。私の昔書いた本が文庫本になりました。指揮棒をペンに変えて音楽を表現する作業はNHK 交響楽団正指揮者岩城宏之氏に学んだものであるが、大家の文章ではなく駆け出し指揮者の失敗集です。タイトルは当初「ホリヤンの指揮道中膝栗毛」を考えていましたが、すぐに却下され「こんな僕でも指揮者になれた」となりました。

秋山和慶芸術監督(指揮者協会会長)絶賛！！



中部フィルNEWS ～ 最近の演奏会から～

小牧の演奏会から

第12回 0歳からの家族で楽しむクラシックコンサート♪

昨年度から主催公演として行っている「0歳からの家族で楽しむクラシックコンサート♪」今回は金管五重奏の演奏でアンコールを含め19曲を聴いていただきました。

共演コーナーでは当日ご持参いただいた楽器を使い「風になりたい」の曲に合わせてサンバのリズムと一緒に演奏をしたり「ようかい体操第一」では、みんな元気いっぱい体を動かしていました。

お客様からは、「(子供が)体をゆらしたり、歌を歌ったりとても楽しそうでした♡また来たいです。」「1歳の娘が手拍子をして楽しそうでした。」など嬉しい感想をいただきました。



サンクスコンサート

8月29日(土)に、まなび創造館あさひホールにてサンクスコンサートが開催されました。サンクスコンサートは、日ごろのご愛顧に感謝を込めて中部フィルの楽団員が主催する無料のコンサートです。

今回は「みなさまのおかげsummerコンサート」と題して、チェロ4人とコントラバス1人という編成で、深く豊かな響きをお楽しみいただきました。多くのお客様にご来場いただき、コンサートのタイトル通り「おかげさま」をもちまして、盛況のうちに終了することが出来ました。



小牧市内幼稚園保育園音楽鑑賞会

今年で8年目になりました、小牧市内幼稚園保育園31園の音楽鑑賞会が今年度も無事に終了しました。生の演奏を聴き、間近に楽器を見ることで園児の音楽への関心を高めることを目的に毎年行っているものです。弦楽、木管、金管、打楽器のアンサンブルが各園に何い演奏を披露しました。大きな音に驚いたり、演奏に合わせて楽しいように体を動かしながら歌っている姿がとても印象的でした。



後
ろ
子
供
達
か
ら
メ
ッ
セ
ー
ジ
が
届
き
ま
し
た。



碧南の演奏会から

0歳からの家族で楽しむクラシックコンサート♪in碧南

毎年小牧で行っている「0歳からの家族で楽しむクラシックコンサート♪」が初めて小牧市を飛び出し、8月15日(土)に碧南市の芸術文化ホールで開催されました。今回は木管五重奏の演奏で、カルメンなどのクラシック曲やLet It Goなど、小さなお子様にも楽しめる公演になりました。お盆まつり中という事もあり、お客様にご来場いただけるか心配だったのですが、当日は200人近くのご家族にお越しいただき、みんなで演奏したり、手遊びしたりとあっという間の60分でした！

今回、新たな試みとしてこの公演の一週間前に太鼓やギロなどの手作り打楽器のワークショップを行い、当日は作った打楽器を持参し、木管五重奏の演奏に合わせて色々なリズムで共演しました。

大人のためのクラシック講座 音楽とカラダの不思議な関係

「音楽で力強い歩みを！リズムと運動の不思議な関係」なぜ「パッフェルベルのカノン」に癒される？」「思い出をいつまでも！記憶と音楽の不思議な関係」

上記のテーマを中心に、音楽療法士の猪狩裕史氏をお迎えして、中部フィル弦楽アンサンブルの演奏を交えながら、音楽が音楽療法の現場でどの様に活用されるのか、というお話をユーモアいっぱいにしていただきました。音楽の不思議な力を少しでも実感していただけたのではないのでしょうか。



♪ 音楽こぼれ話あれこれ ♪

「アクシデントは突然やってくる」

ファウンダー 佐藤 宏

もし！！コンサートの最中に停電になると、どうなるか？ それこそ一寸先も見えない真っ暗闇になる訳だが……。

約50年も昔、私が大阪フィル青年奏者だった1965年頃、実際に起こった話なのである。

“大阪国際フェスティバル”といって、フェスティバルホールを会場に毎年、一流音楽家を招いて国際音楽祭が開かれていた。(現在も続けられている)その企画の一つで、ヴァイオリン独奏チグモンディー、指揮は確か、外山雄三氏、オーケストラは当時私が所属していた大阪フィル、演目はベートーヴェン、ヴァイオリン協奏曲、その本番中に起こったのであった。

私は出番はなく、「とにかくヴァイオリンが素晴らしいよ！！」と聞いていたので会場で拝聴していた。協奏曲の第一楽章の、かなり終わりの方、残り5分程の箇所、ちょうど台風が来ていた中でのコンサート、突然パッと停電になったのである。

私は驚いたと同時に、この先どうなるのか？と心臓が、早鐘の様に打ったのであった。ソリストは勿論、暗譜で弾いているので停電はさほど、困らないようで淡々と弾いている。ソロが弾いている限りオーケストラも止める訳にはいかない。こうなったら指揮者の存在は無いに等しい。そして、とにかく無事に一楽章の終わりまで、演奏した訳だが暗譜に自信がない人は自然に音を出さなくなり、段々と音量が薄くなったのは否めないが、それが又まるでこのように演出した如く美しく終わったのであった。

そして終わると同時にパッと電気が灯り客席から思わず拍手が起こった程だった。

私はこの時ほど、大阪フィルの素晴らしさに感嘆した事はなかった。やはり一流オーケストラは違うわ！！と、本当に誇らしい気持ちだった。

約半世紀程の昔の話。現在では考えられない出来事だったのである。

文化庁公演・ワークショップレポート

平成27年度文化芸術による子供の育成事業

チェロ 河井裕二

今年も文化庁公演のシーズンがやってまいりました！

入団2年目。チェロの河井裕二です！

オーケストラの公演に携わる人にとっては、今年もいよいよシーズンが来たな…。と気合が入る時期なのですが、世間の方々からすると何の事だかマイチわからないかと思います。

なかなか世の中に公開される公演では無いのですが、日本全国の小中学校を訪れ、体育館等でオーケストラの演奏をする。というもののなのです。

その1時間程の公演の中には、将来子供たちが文化芸術をより身近に感じられるきっかけを作る。という未来の音楽界にとって、とても大きな目的を達成する為の要素がぎっしり詰まっています。

会場が体育館だから。相手が小中学生だから。といて気を抜く事無く、どの公演でもチューニングで音を出す時から責任を持って演奏をしています。

さてさて、少々説明が堅苦しくなりましたが、この文化庁公演は本公演の1ヶ月程前に楽団員3人が学校へ赴き、オケと生徒たちが共演するボディーパーカッションと合唱の事前指導をするワークショップを行います。

中部フィルは今年北九州エリアが担当区域で、私は香崎島へワークショップに行ってきました。

行き帰りのフェリーが…。今思い返してもウツ。となるほど玄界灘の荒波に揉まれました。けどそんな事スッカリ忘れてしまう位に、元気いっぴいな子供たちとの時間は充実していて、大人の女性には全くモテない私ですが、小学生の女の子からは、周りを取り囲まれて質問攻めを受けたりしちゃって結構な人気者だったんですよ。(笑)

こんな文化庁公演ですが、シーズンはまだまだ先が長いです。佐賀の日本酒も熊本ラーメンも大変美味しく頂いたのですが、旅先での食べ過ぎ飲み過ぎに気をつけつつ、全国の小中学生や、中部フィルをご支援して下さる方々に、喜んで頂ける演奏を届けられるよう考えていきたいと思えます！

